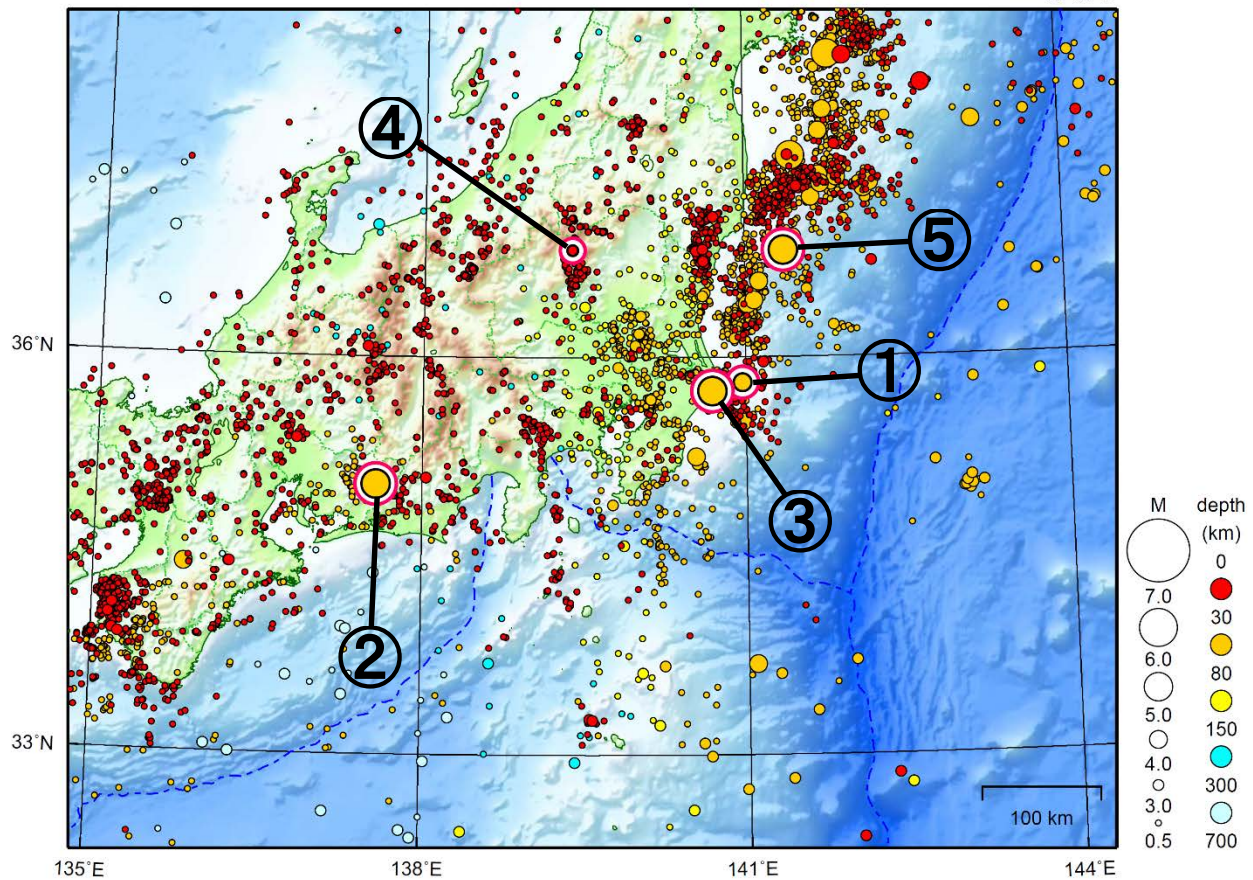


関東・中部地方

2018/10/01 00:00 ~ 2018/10/31 24:00

N=6048



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOP02v2を使用

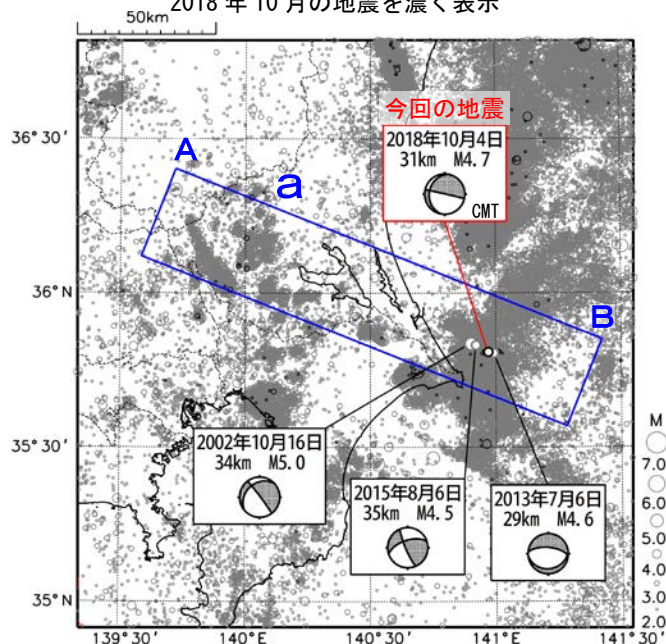
- ① 10月4日に千葉県東方沖でM4.7の地震（最大震度4）が発生した。
- ② 10月7日に愛知県東部でM5.0の地震（最大震度4）が発生した。
- ③ 10月12日に千葉県北東部でM5.2の地震（最大震度4）が発生した。
- ④ 10月15日に栃木県北部でM3.7の地震（最大震度4）が発生した。
- ⑤ 10月27日に茨城県沖でM5.0の地震（最大震度3）が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

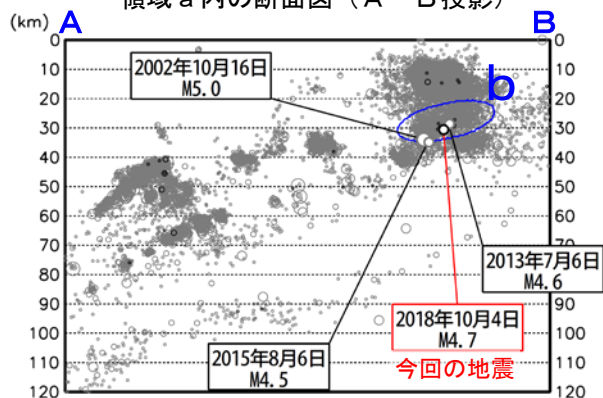
10月4日 千葉県東方沖の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2018年10月31日、
深さ0～120km、 $M \geq 2.0$)
2018年10月の地震を濃く表示

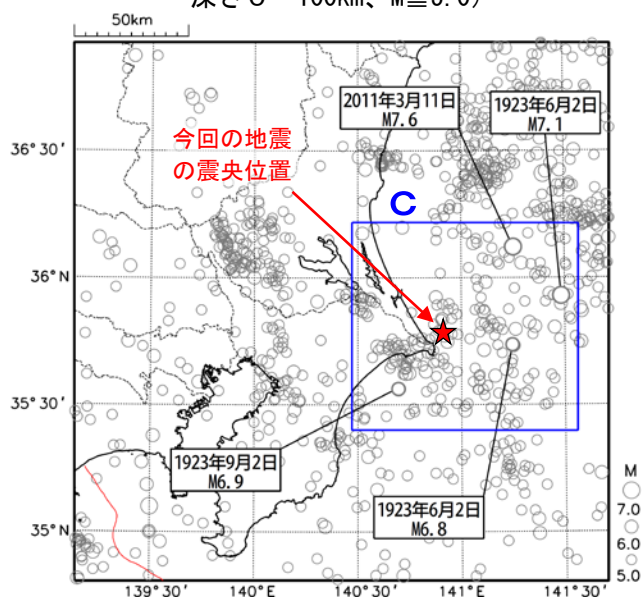


領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図

(1923年1月1日～2018年10月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)

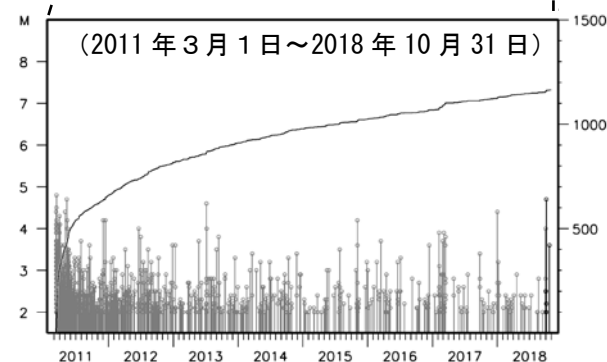
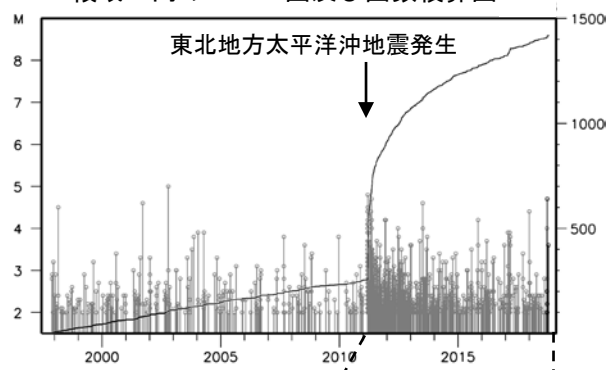


2018年10月4日00時15分に千葉県東方沖の深さ31kmでM4.7の地震 (最大震度4) が発生した。この地震の発震機構 (CMT 解) は南北方向に圧力軸を持つ型である。

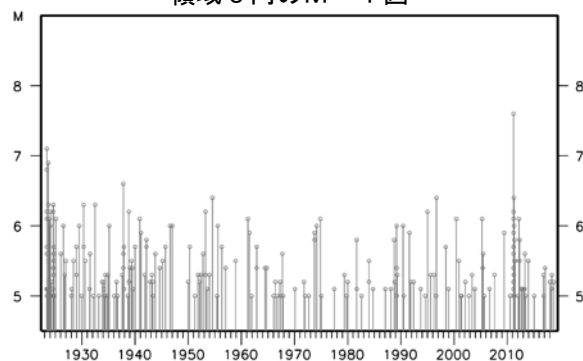
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、東北地方太平洋沖地震の発生以降地震活動が活発になり、M4.0以上の地震が時々発生している。

1923年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、M6程度の地震が時々発生している。また、1923年9月1日に発生した関東地震の前後や東北地方太平洋沖地震の直後にはややまとまって地震が発生している。

領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内のM-T図

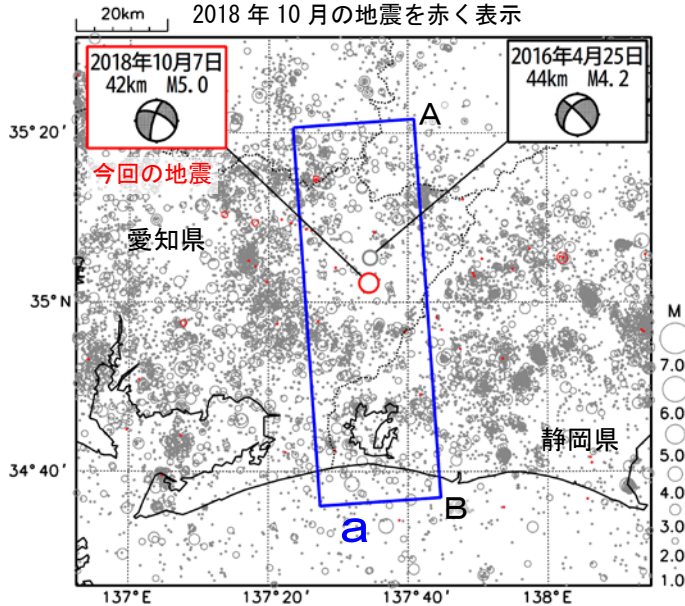


10月7日 愛知県東部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2018年10月31日、
深さ0～60km、 $M \geq 1.0$)

2018年10月の地震を赤く表示

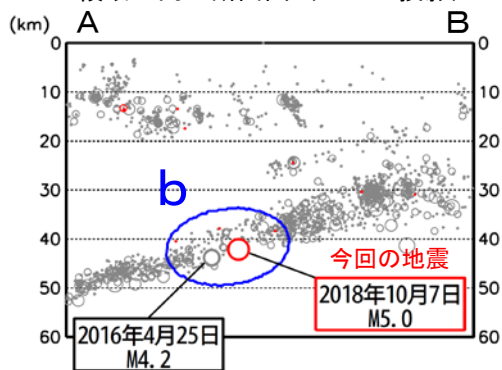


2018年10月7日10時14分に愛知県東部の深さ42kmでM5.0の地震（最大震度4）が発生した。この地震は、フィリピン海プレート内部で発生した。発震機構は、東北東－西南西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

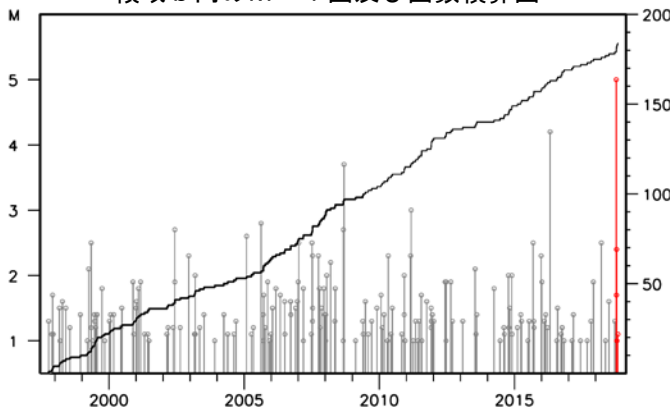
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）は、定常的に地震活動の見られる領域であるが、M5.0以上の地震が発生したのは今回が初めてであった。

1923年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、1997年3月16日にM5.9の地震（最大震度5強）が発生した。この地震により、負傷者4人、住家一部破損2棟の被害が生じた（「日本被害地震総覧」による）。

領域a内の断面図（A－B投影）

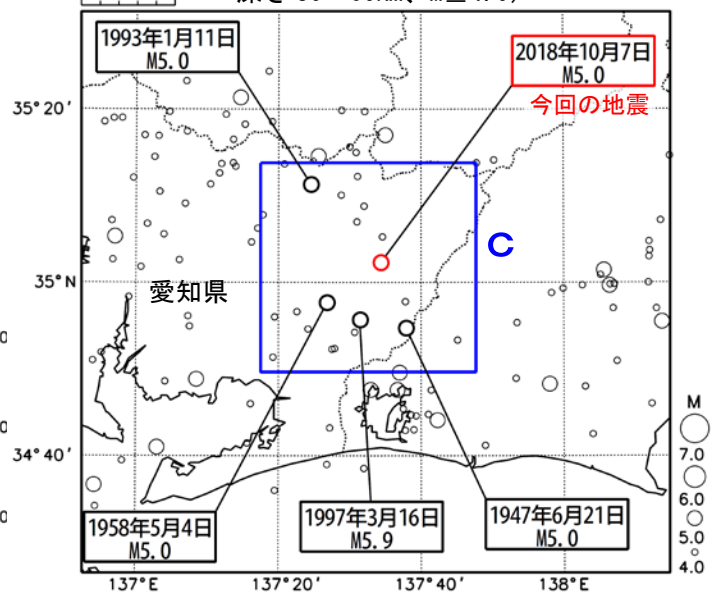


領域b内のM－T図及び回数積算図

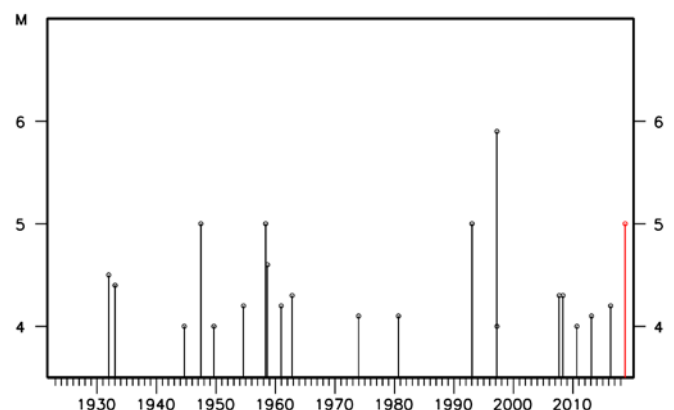


震央分布図

(1923年1月1日～2018年10月31日、
深さ30～60km、 $M \geq 4.0$)



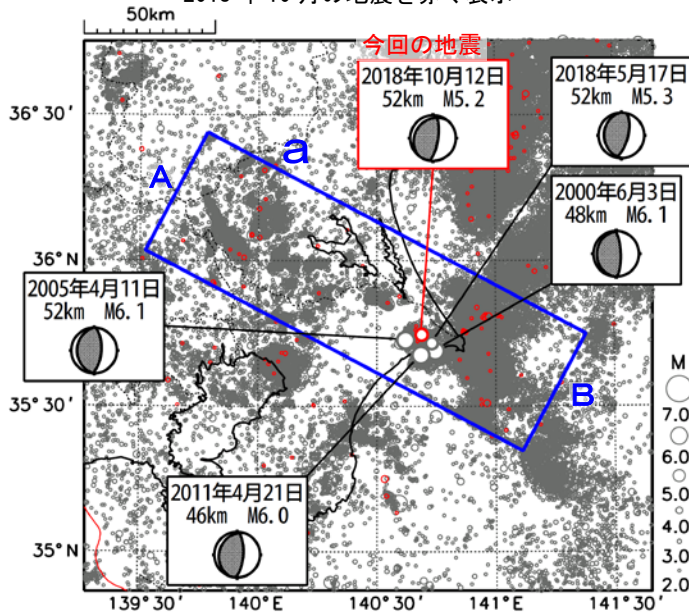
領域c内のM－T図



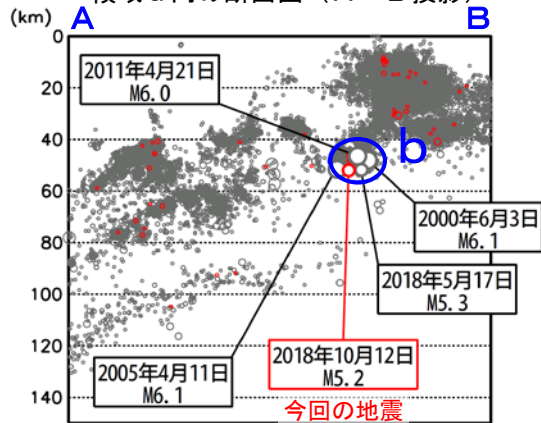
10月12日 千葉県北東部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2018年10月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 2.0$)
2018年10月の地震を赤く表示

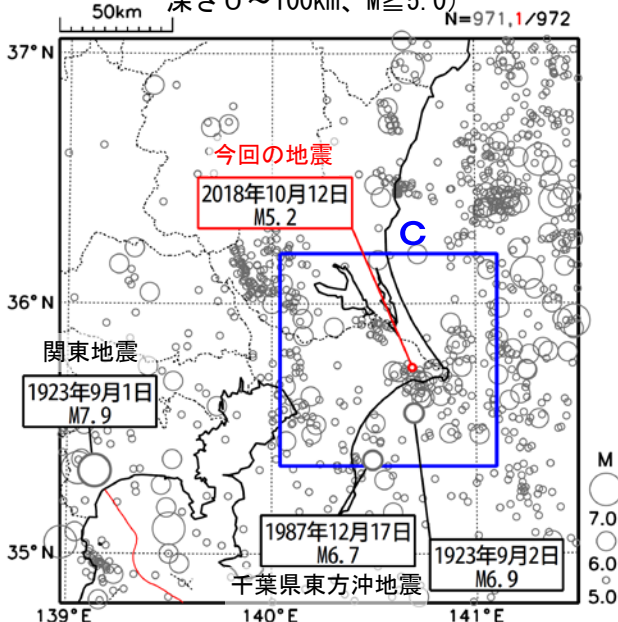


領域a内の断面図（A-B投影）



震央分布図

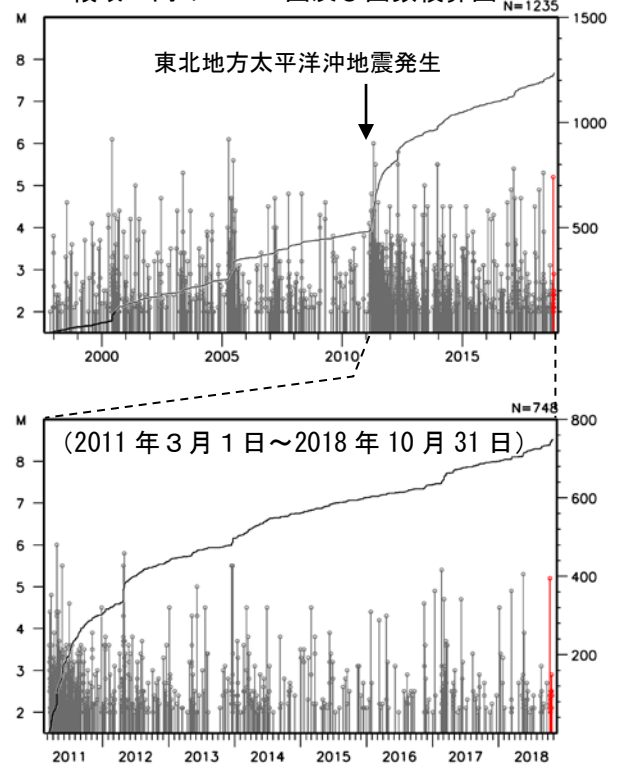
(1923年1月1日～2018年10月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)



2018年10月12日13時15分に千葉県北東部の深さ52kmでM5.2の地震（最大震度4）が発生した。この地震は発震機構が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。最近では、ほぼ同じ場所で同年5月17日にM5.3の地震（最大震度4）が発生した。

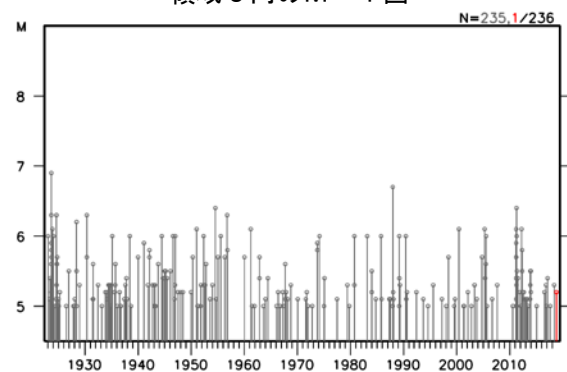
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M6.0以上の地震が時々発生しており、東北地方太平洋沖地震の発生以降、地震活動が活発になった。

領域b内のM-T図及び回数積算図



1923年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M6程度の地震が時々発生している。1987年12月17日に発生した千葉県東方沖地震（M6.7、最大震度5）では、死者2人、住家全壊16棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

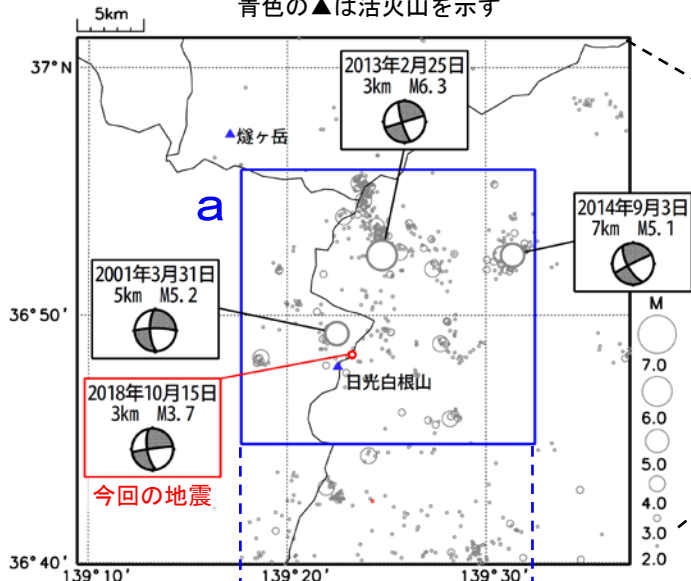
領域c内のM-T図



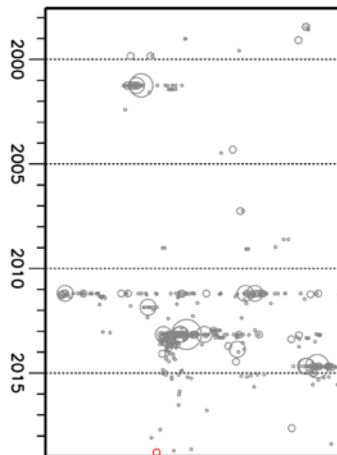
10月15日 栃木県北部の地震

震央分布図

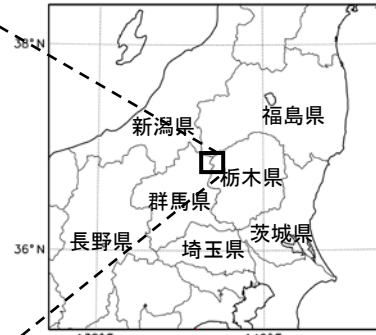
(1997年10月1日～2018年10月31日、
深さ0～20km、 $M \geq 2.0$)
2018年10月の地震を赤く表示
青色の▲は活火山を示す



領域a内の時空間分布図（東西投影）

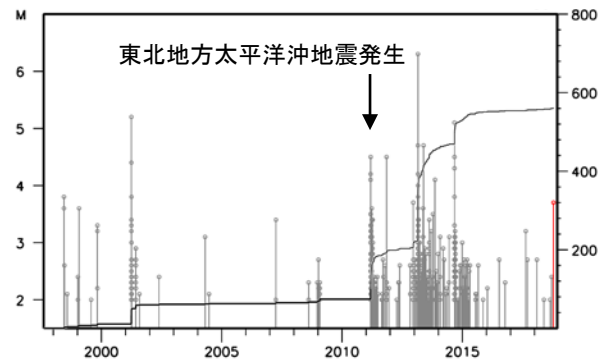


2018年10月15日16時10分に栃木県北部の深さ3kmでM3.7の地震（最大震度4）が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。



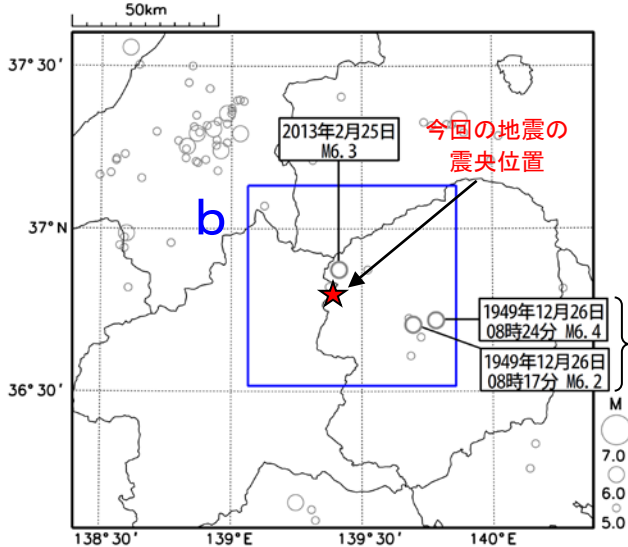
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）では、東北地方太平洋沖地震の発生以降、地震活動が活発になり、2013年2月25日にM6.3の地震（最大震度5強）が発生した以降は、さらに活発になった。

領域a内のM-T図及び回数積算図



震央分布図

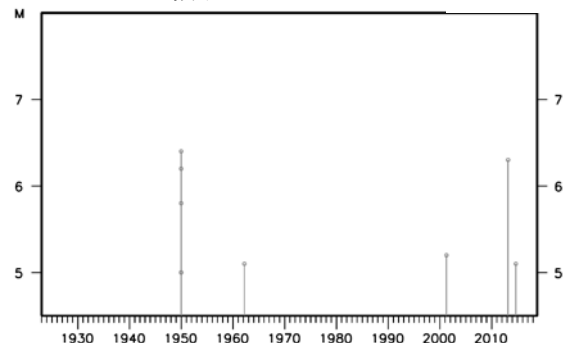
(1923年1月1日～2018年10月31日、
深さ0～40km、 $M \geq 5.0$)



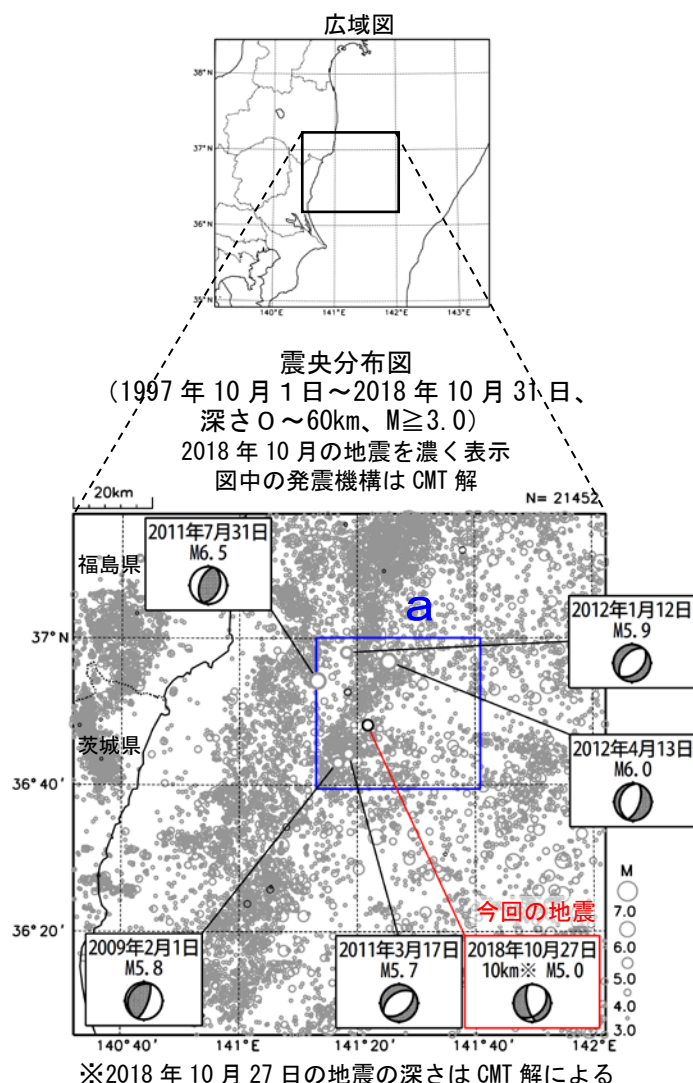
今市地震

1923年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、1949年12月26日にM6.2とM6.4の地震が短い時間で連続して発生し（今市地震）、死者10人、負傷者163人、住家全壊290棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

領域b内のM-T図



10月27日 茨城県沖の地震

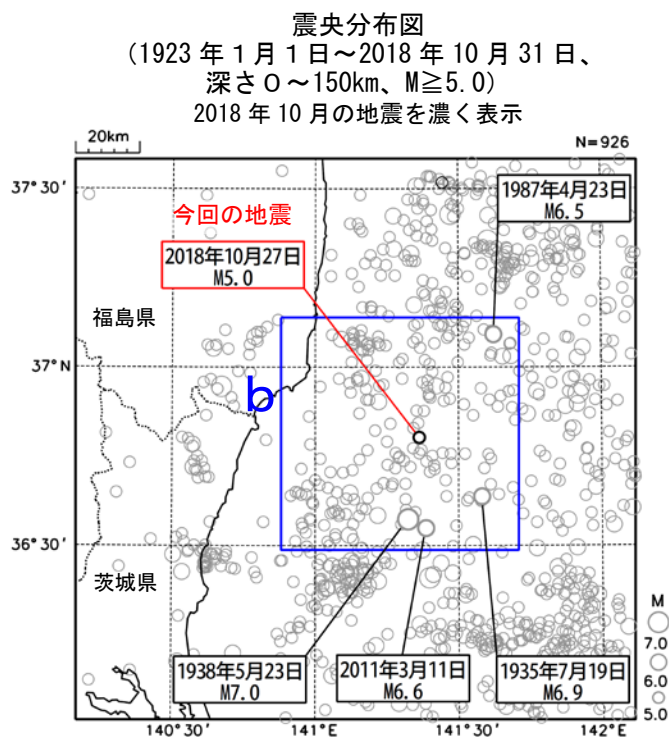
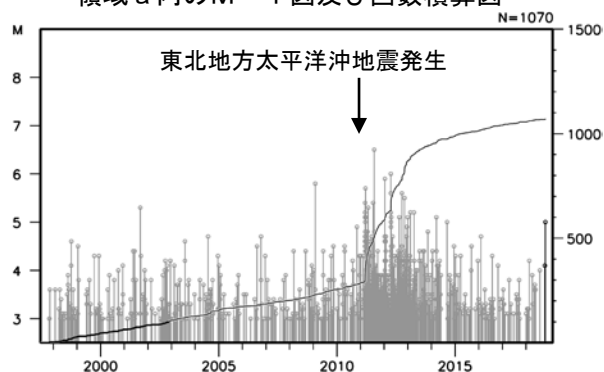


2018年10月27日09時08分に茨城県沖の深さ10km（CMT解による）でM5.0の地震（最大震度3）が発生した。この地震は陸のプレートの地殻内で発生した。発震機構（CMT解）は東西方向に張力軸を持つ型であった。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域a）では、M5.0以上の地震が時々発生している。また、2011年7月31日にM6.5の地震（最大震度5強）が発生するなど、東北地方太平洋沖地震の発生以降、地震活動が活発となった。

1923年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M6.0以上の地震が時々発生している。このうち1938年5月23日に発生したM7.0の地震では、福島県小名浜で83cm（全振幅）の津波が観測された（「日本被害地震総覧」による）。

領域a内のM-T図及び回数積算図



領域b内のM-T図

